

## 「保険薬局業界の構造分析」

経済学部 経営学科 4年  
丹野 雄介  
米山専門ゼミナール第3部所属

### <論文の要旨>

本稿における目的は、保険薬局業界の詳細な構造を明らかにし、業界の全体像を浮かび上がらせ、業界の利益ポテンシャルを判断することである。

以上の目的を達成するために、まずⅡ章においては本稿における分析対象である保険薬局業界の定義をし、保険薬局業界の歴史的プロセスをマクロデータに基づき簡単に追った。この章においては保険薬局業界は2011年現在、市場成長期から市場成熟期に移行しつつあるという事実が明らかになった。

次にⅢ章においては、2011年現在における保険薬局業界の利益ポテンシャルを判断するために、M・ポーターの業界構造分析法に基づいて分析を行った。その結果、業界内の競争は激しく(Ⅲ-i)、新規参入の脅威は中程度で(Ⅲ-ii)、買い手の交渉力は中程度で(Ⅲ-iii)、売り手の交渉力は強く(Ⅲ-iv)、代替品の脅威は大きい(Ⅲ-v)という5つの競争要因の程度が分かった。また、これらを総合的に判断した結果2011年現在における保険薬局業界の利益ポテンシャルは低まっているということが分かった。

Ⅳ章においては、利益ポテンシャルの低まっている保険薬局業界が今後どうすれば利益ポテンシャルを高めることができるのかということについて、1つの仮説を導き出した。その仮説とは、保険薬局業界においては補完財の支援と脅威という6つの競争要因を操作すれば、利益ポテンシャルは高まるということである。

最後にⅤ章においては、本稿において論じたことを簡潔にまとめ、その上で今後の保険薬局業界における筆者の私案を述べた。

以上が本稿の要旨である。

### <キーワード>

5つの競争要因分析・利益ポテンシャル・補完的生産者